

公文書管理法と文書管理の新たな変化

～ 公文書管理法に基づく業務改革の実現 ～

「国民共有の知的資源」である公文書を適切に管理し公開する仕組みを定めた公文書管理法が施行されて1年が経過したいま、公文書管理法は政府の議事録未作成問題でふたたび注目されています。

同法の目的は行政（組織活動）の適正運営や現在および将来の国民に対する説明責任の確保です。これを民間企業に置き換えると「企業活動のカギとなる内部統制」や「透明性の確保」といった業務改革を実現することとなります。

本年は、「公文書管理法に基づく業務改革の実現」をテーマに、公文書管理法がもたらしたものの、残された課題を検証し、文書管理に求められる新たな変化を紹介して参りますので、奮ってのご参加をお願いいたします。

主 催	一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA) ドキュメントマネジメントシステム (DMS) 部会	
日 時	2012年7月27日 (金) 13:30～17:00 (受付開始 13:00)	
会 場	THE GLAND HALL (グランドホール) 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー3階	定員 150 名 TEL 03-5463-9973[受付専用]
アクセス	・JR 品川駅、港南口(東口)よりスカイウェイにて直結 (徒歩3分) ・京浜急行 品川駅より連絡通路を進み JR 品川駅、港南口を経てスカイウェイにて直結 (徒歩6分)	
受講料	無料	
特 典	セミナー資料として『文書管理物語』(JBMIA DMS 部会著、東洋経済新報社刊) 付 但し、当日ご出席されアンケートにお答えいただいた方とさせていただきます。	
お申込み	JBMIAのHP (http://www.jbmia.or.jp) の「イベント・セミナー」からお申込みください。 (定員になり次第、締め切らせていただきます)	

【講演テーマとスケジュール】

13:30～13:35	挨拶	一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 専務理事 中西 英夫
13:35～14:45 (70分)	特別講演	公文書管理制度の来歴を再考する — 文書管理システムを考える手がかりとして 講師: 一橋大学大学院社会学研究科特任講師 瀬畑 源 (せばた はじめ) 氏
14:55～15:55 (60分)	テーマ1	Case Management による非定型業務の情報保全、管理のご提案 講師: 社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 DMS 部会 部会長 株式会社 日立コンサルティング 伊藤 泰樹 (いとう やすき)
16:05～16:55 (50分)	テーマ2	DACS コンセプトとその実装について (診療録管理事例) 講師: 富士ゼロックス株式会社 営業本部 ヘルスケア営業部長 畑仲 俊彦 (はたなか としひこ) 氏

【会場 MAP】



【DMS部会ご紹介】

当部会は昭和62年以来、一貫して企業の経営力強化を果たす有効手段として「文書管理システム(DMS)」を提唱し、紙文書の電子化保存から破棄までの「文書サイクル」の最適化実現に向けた開発と普及に取り組んでいます。

最近では「e-文書法」「金融商品取引法」「内部統制」をキーワードとしたセミナー開催や解説書の発刊を通してDMSの普及啓蒙を図っています。(参照 URL <http://www.document.jbmia.or.jp/>)

【お問い合わせ先】

〒105-0003 東京都港区西新橋3-25-33 NP御成門ビル4F
一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
DMS部会事務局
Tel. 03-5472-1101 Fax 03-5472-2511
Email: okajima@jbmia.or.jp

【講演概要】

<p>【特別講演】 公文書管理制度の来歴を再考する —文書管理システムを考える手がかりとして</p> <p>2012年1月22日、NHKによって原子力災害対策本部の議事録が未作成だったことが報じられ、これが野党やマスメディアの厳しい批判にさらされることになりました。この批判の根拠となったのが、2009年に制定、2011年4月に施行された「公文書管理法」です。しかしなぜこの時期に公文書管理法は制定されたのでしょうか。議事録未作成問題の原因を考えるためにも、公文書管理の歴史的経緯を明治時代からさかのぼって分析し、日本の公文書管理制度の特徴を浮かび上げさせ、現在の文書管理システムを考える手がかりを、今注目される若き政治史学者が示唆します。</p>	<p>講師・プロフィール 一橋大学大学院社会学研究科特任講師 瀬畑 源(せばた はじめ)氏</p> <p>1976年、東京都生まれ。一橋大学大学院社会学研究科特任講師、一橋大学博士(社会学)。 専攻は日本近現代政治史。著書に『公文書をつかう—公文書管理制度と歴史研究』(青弓社、2011年)、論文に「昭和天皇「戦後巡幸」の再検討——一九四五年十一月「終戦奉告行幸」を中心として」(「日本史研究」2010年5月号)など。 ブログにおいて公文書管理問題などについて積極的に情報発信中。「源清流清——瀬畑源ブログ」 http://h-sebata.blog.so-net.ne.jp/</p> 
<p>【テーマ1】 Case Management による非定型業務の情報保全、管理のご提案</p> <p>公文書管理法の施行から約一年、公文書管理法や従来からの情報公開法に基づく文書管理システムを活用しつつ、将来の国民への説明責任を果たしていく業務・システムが求められています。しかし、紙への依存性の高さから説明や業務ノウハウの維持に必要となる情報を遺失したり、業務の効率が落ちていたりしています。それらを解決し、適格に情報を生成・保存し活用していくための情報運用のあたらしい概念として、Case managementが注目されています。そのCase Managementの考え方と活用について、例を交えて紹介いたします。</p>	<p>講師・プロフィール JBMIA DMS部会 部会長 株式会社 日立コンサルティング 伊藤 泰樹</p> <p>1985年、(株)日立製作所に入社。財務や会計などの帳簿・証憑の保管に関するシステム作りを歴任。2006年10月より、(株)日立コンサルティングに移り企業の情報流通関係のコンサルティングに従事。 2003年よりDMS部会長として書籍の発刊やセミナー講演を通じてe-文書法や内部統制を支える文書管理システムの普及促進に努めています。 上は、DMS部会著『文書管理物語～ストーリーと解説で学ぶ電子的情報管理の実現』(東洋経済新報社、2011年)</p> 
<p>【テーマ2】 DACS コンセプトとその実装について (診療録管理事例)</p> <p>富士ゼロックス株式会社は、大阪大学医学部附属病院医療情報部が提唱されている、DACS(Document Archiving and Communication System)コンセプトの実装を行いました。現在、すべての診療記録を一括管理し、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠した運用を行っています。また、DACS コンセプトの可能性は、この技術を社会インフラに応用することで、将来の地域医療サービスのありかたを根本的に変えていく大きなパワーを秘めています。これらの内容についてその取組みを紹介いたします。</p>	<p>講師・プロフィール 富士ゼロックス株式会社 営業本部 ヘルスケア営業部長 畑仲 俊彦氏</p> <p>1979年、富士ゼロックス株式会社に入社。1996年より、岡山支店長、広島支店長を歴任した後、2002年に、ニュービジネスカンパニー事業開発マネージャーとして従事。以後、オフィスサービス事業本部マーケティング部長などを経て、新規事業の企画実行をする中で、医療情報研究タスクをリーダーリングする。2008年に、医療情報開発推進室長を経た後、2010年、ヘルスケア営業部長に就任し、ヘルスケア業界でのドキュメント管理の活用と普及に努めている。</p>